

# 定通部だより

2010年  
8月20日発行  
第2号  
発行責任者  
今泉 宏

## 定通部 第21回定期大会

2010年7月24日(土) 10:30~12:30 高教組会館  
議運 松尾 猛(諫早定) 議長 江頭 清隆(佐工定) 記録 川内 裕之(鳴滝夜)

出席 11分会中8分会が出席、3分会から委任状が提出され大会が成立  
出席者は傍聴、定通部役員も含め、14名

大会の冒頭、本部の森文明本部副委員長のあいさつの中で「主幹教諭」及び「指導教諭」の新設に関する申し入れについての説明があり、誠意のない県教委の姿勢に参加者の怒りが爆発した。

2009年度の経過報告の中で、「定時制・通信制教育の充実を求める署名」が6分会132筆との報告について、今年度は昨年度の反省にもとづき、定通部としてしっかり取り組んでいくべきとの意見が出た。また、定時制専用教室には冷暖房設備がついておらず、定通生の学習環境は厳しい。

また進路に関しては宮城県の取り組みを例に、高卒生を採用した企業に補助金を出すように高教組として県に要望を出すことが必要であるとの意見も出された。そして、県独自の定通部の取り組みを県に伝えるためにも、県にも署名を届ける必要があるのではないかという意見が出た。

予算に関しては、繰越が多くまた本部からの部費も5万円増えたため、積極的に県外の研修会に参加しようと呼びかけを行った。

## 定通部 県教育研究集会

テーマ 「進路問題」 「定通教育の現場における現状と問題点」

司会者 田向 弘文(佐世保中央夜間) 記録者 今泉 宏(鳴滝夜間)  
参加者 十二名

### 一. 提出レポート

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| ①「佐世保工業定時の進路について」  | 近藤陽志夫(佐工定) |
| ②「鳴滝通信制生徒の進路について」  | 福田 光芳(鳴滝通) |
| ③「鳴滝高校夜間部の現状」      | 今泉 宏(鳴滝夜)  |
| ④「国語総合での古典授業(漢文編)」 | 木倉 保夫(鳴滝夜) |
| ⑤「地域につながる」         | 森 文明(鳴滝夜)  |

## 二. 討議の概要

テーマ「進路問題」「定通教育の現場における現状と問題点」

### ① 近藤レポート

最初に近藤氏による手品が披露され、和やかな雰囲気での教研がスタートした。近藤氏は、母校で実習教員として長年勤めている。佐工定は部活動が盛んで、工業高校ということもあり就職・進学が安定しており、ほぼすべての卒業生が進路を決めることができているという報告であった。進路指導部としては、企業の代表を招いての職業講話なども行っているという報告もなされた。

### ② 福田レポート

福田氏は鳴滝通信5年目。通信制において毎年35～40%が進学しており、進学へのニーズは高い。一方就職は毎年10名未満である。しかし、問題は卒業生のうち就職も進学もしない生徒が毎年100名前後いることである。また、大学進学の子は意欲がありそれなりの努力をしているが、専門学校に進学した生徒の中には退学した生徒も見られ、立ち直ったかに見える生徒がまた進学先でつまづいているのではないかという報告がなされた。

### ③ 今泉レポート

今泉氏は、2006年度に鳴滝夜間に赴任し、一年次から四年次まで持ち上がり、その間の生徒の動きを中心に報告がなされた。三年卒の生徒達はほぼ進路を決めることができたが、既に離職している生徒がかなりいる。一方、四年卒の生徒は進路意識や学力が低く、就職を決めることができずに卒業した生徒が多いという現状が報告された。今泉氏は今年度再び一年生の担任をしており、三教科で基礎学力確認テストを実施し、生徒の基礎学力を把握するなど四年間の反省をもとにした新たな取り組みの紹介も行われた。

### ④ 木倉レポート

国語の授業特に漢文の授業において工夫したレポートであった。全ての漢字にふりがながつけられ、丁寧な授業ぶりを感じることができ

た。

### ⑤ 森レポート

生徒、職員、地域の方が一体となった合唱やバンド活動で文化祭や地域のまつりに参加した経験をもとに地域に開かれた学校ではなく、地域の学校となるための提言がなされた。

レポート報告の後、フリートークとして、「生徒の受け入れ」「卒業後」の問題が討議された。

#### 「生徒の受け入れ」の問題

各学校で定数には満たないが、不合格者が出ている現実がある。今の世の中では、定通制の学校に行けなかった生徒たちの行く場所がない。広域通信制などに行くこともできるが、経済的に難しい子どもたちが多い。また、高校の統廃合で行き場を失った生徒たちが、定時制に来ている例として諫早の場合、以前は諫早高来分校、西陵東長崎分校、諫早定時の役割分担のようなものがあつた。しかし、諫早定時だけになると、今まで昼の学校に通うことができていた生徒さえも定時に入学してきている状況がある。果たして、中学を卒業したばかりの生徒たちを、夜に学校に通わせるのが良いことなのだろうかという疑問が投げかけられた。また、「多様な生徒」「受け皿」という言葉がよく使われるが、多様とは何かについては議論が必要、受け皿という言葉は私たちが使うべきではないという意見も出された。

今後の定通制の役割として職員を増やすことを前提として普通高校と特別支援学校との生徒を育てるクラスの設置や職場推薦による推薦制の導入などの意見もあつた。

#### 「卒業後」の問題

普通科に比べ、工業科は生徒の目的意識もはっきりしており、就職もできている。普通科の場合、もし求人があつても勧められない企業であつたり、求人票を見て就職したものの条件が異なつてもどうしてよいのか分からない生徒がいるという現実が報告された。また、多くの普通科の

定時制が進学校である全日制の高校に併設されていることも、普通科の定時制に求人が来ない要因と思われる。これまでは就職担当者と企業のつながりで就職ができていたが、公募制になり、人と人の繋がりが薄れてきていることも就職難の

原因という意見も出た。

各学年による職業観、就職に対する意識高揚、就職してからのトラブル回避のためにも高校におけるキャリア教育を考え直す必要があるという意見が出された。

## 日高教定通部 2010 年度臨時総会 全国定通教育学習交流集会 in 犬山

日 程 2010年7月30日（金）～8月1日（土） 愛知県犬山市 犬山温泉「迎帆楼」  
参加者 森 文明（本部執行副委員長・鳴滝夜） 今泉 宏（定通部長・鳴滝夜）  
堂山由梨恵（生徒・鳴滝夜）

### 臨時総会

これまで2月に行われていた日高教定通部の総会が本年度より夏の学習交流集会と同時開催されることになり、今回は臨時総会という形で行われた。

22組織36名出席、15名が発言。



高校生フォーラム（左から3番目が堂山さん）

### 全国学習交流集会

#### 1. 講演：「高校授業料無償化」の内容・意味・問題点

##### 三輪 定宣さん（千葉大学名誉教授）

高校授業料無償化は長年の我々の要求がようやく実現した画期的な制度である。人間は本来思いやりや助け合いで生きる共同性を有しており、人々が子ども、若い世代を育てるために授業料無償にするのは当然のなりゆきである。経済的地位にかかわらず進学、進路の希望が保障され、みんなから支えられているという思いを持つことで社会連帯の精神が広がる。しかし、貧困・格差が拡大するなか、授業料以外の教育費の負担は依然深刻である。また、学力などの都合で私学選択を余儀なくされる場合が多く見られ、公私格差の解消も重要な政策である。

高校無償化を皮切りに万全・盤石の無償教育体制の構築を超党派的課題として取り組まれることを切望する。

#### 2. 授業料以外にこれだけかかります「定通制第一学年徴収金調査より」

定時制高校においては、年間 32,400 円の軽減に過ぎず、授業料の減免制度と同時に、PTAや生徒会費の免除がなくなり、費用負担が増えたケースが報告されている。全国の定時制高校での1年生の負担は、69,951 円（修学旅行費、交通費は別）。

### 3. 「高校生フォーラム」～授業料無償化になって～

大阪、埼玉の高校生が中心であったが、本県から初めて高校生が参加した。それぞれの経験を話す中で高校生の交流ができたのは大変貴重な経験だったと思う。

参加した生徒は、全日制、通信制でうまくいかずに19歳で定時制に入学してきたが、定時制で「理解できる喜びを感じている。今はやる気がこれまでと違う。」という発言が印象的だった。

### 4. 学費以外の就修学保障問題

特に都市部では、統廃合により夜間定時制に大量の不合格者が出ている。これは明らかに、全日制、定時制における受け入れ枠の不足である。大阪では府高教組定通部、夜間高校を励ます会の運動が全日制の募集枠拡大をさせた。また、定数内不合格者の問題に関しても、授業料無償化、教育の機会均等の実現と矛盾があるのではないかという意見もあった。

その他、外国籍の生徒の受け入れについて、日本語が十分理解できない生徒もおり、現場の教員だけでは到底対応できないという意見が多く出された。

また、定時制における給食の重要性についても各県から意見が出された。

### 5. 無償教育に向けてこれからの展望を見出す（パネルディスカッション）

子ども手当、授業料無償化は社会の合意でなく成立している。国民みんなで子どもを育てるという発想を浸透させないと、政権によっては再び元に戻ることも予想される。個人之力では社会をコントロールすることができない。国が個人（子ども）を支える保障システムとして無償化という制度があることを認識しより発展させていく必要がある。

定時制はどの地域にも必要なセイフティーネットとしての役割がある。さらに地域にはサポートステーションなどの施設もあり、学校はもっと地域の力を利用すべきであるという提言もなされた。

#### 参加した生徒の感想 堂山由梨恵（鳴滝高校夜間部）

今回初めて参加させてもらって、いろんなことを知り、考えました。テーマが「学ぶ働くつながる～高校生と修学権～」ということで、主に授業料無償化についての話でした。

3日間にわたり、全国の先生方や定時制、通信制に関わる多くの方の話を聞きました。私の他に愛知、埼玉、大阪の生徒が参加していて、最初は人見知りしてなかなか馴染めませんでしたが、2日目の『高校生フォーラム』では「定時制に通うようになったきっかけ」「学校生活」「授業料無償化」について多くの先生方の前で発表しました。慣れないことで非常に緊張しましたが、自分のことを知ってもらおうと同時に、改めて今までの自分を振り返り「こうやってみんなの前で話せるようになったのは、何度も挫折して遠回りしたけれど、その経験が自分を成長させたからだ」と素直に思

うことができました。3日間を通し、他の学校の生徒と出会い、いろんな話をしてすごく刺激を受けました。また、今までの自分、そしてこれからの自分についても考える機会になりました。

人間は簡単には変わることが出来るとは思いませんが、今自分の中に小さな変化を感じることがあります。今まではすぐに落ち込んで立て直すのに時間がかかっていたのですが、最近では反省ももちろんしますが、「落ち込んででも仕方がない。もっと頑張ろう」と思えるようになりました。今回の経験は今の私をさらに後押ししてくれたような気がします。それだけ今回の経験は私にとって大きなものでした。今回の経験を無駄にしないように、今の気持ちを忘れず、一步一步成長していきたいと思えます。